

第5次西宮市総合計画後期基本計画策定に係る学識経験者懇談会（第2回） 議事概要

開催日時	令和5年1月24日（火）午後3時00分～5時15分
開催場所	西宮市役所本庁舎442会議室
出席者	岡教授、客野教授、倉石教授、新川名誉教授、花田教授、馬場教授、藤井教授
欠席者	佐藤教授、西村教授
事務局	清水政策局長、時井政策局担当理事、三村政策総括室長、堀越政策推進課長
傍聴者	なし
議題(案件)	1 財政収支見通しと事業計画 2 後期基本計画の策定に当たって 3 その他 今後の開催予定について
資料	資料1：財政収支見通しと事業計画 資料2：後期基本計画の策定に当たって

議 事 の 経 過	
発言者	発言の内容
構成員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回懇談会における追加資料について (事務局より事前送付資料の説明) ・ 人口が減少しても世帯数は増加していくものと思っていたが、将来推計においては、2025年以降に世帯数が減少していくことが示されている。現状では増加し続けている世帯数と住宅数、特に共同住宅の状況から、将来は予想以上の空き家が発生する事態になることが懸念される。建設業界はなかなかすぐには止まらないので心配になる。数値の規模が大きいので驚いている。
構成員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年少人口割合が11%程度で推移していく将来は、近隣都市間で取り合うようなことが起きてくるのではないかと。また、市民アンケート結果において、20歳代から50歳代、並びに家族構成別では、夫婦のみ世帯や夫婦とその未婚の子供のいる世帯、父親または母親とその未婚の子供のいる世帯でⅡ子供・教育分野の満足度が低い傾向にある。まさに子育てをしている当事者の満足度が低い結果になっている。この要因については、今後分析の上、仮説的にでも示していくべきだと感じる。前期基本計画では保育所の整備について重点が置かれているが、果たして保育所の整備だけでこの満足度が上がるのかどうかは考えていく必要がある。
座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ この結果は、子供・教育に関する施策全体の検討、見直しの視点になっていくと思われる。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 明石市など他市における独自性のある子供教育施策のPRが目立ち、どうし

<p>構成員</p>	<p>でも比較されてしまうという部分も満足度が低い要因になっていると思う。子供の保育分野では、待機児童全国ワースト1位の解消に向け、一時期保育所整備に注力し過ぎていたところがある。一定のめどが立ちつつある中、今後は虐待対応などにも力を入れ、資源や施設の見直しなどを図って、これから注力すべきところに人材や財源を配っていくことを考えている。</p>
<p>座長 事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・西宮市の人口が2020年を転機に減少していく中、また全国的にも人口が減少していく中で、今後市の政策は、西宮という立地を生かして若い人の吸引を図っていくのか、あるいはソフトランディングのような方向で考えていくのか、どう均衡をとっていくのか、新たなチャレンジだと思う。 ・このことは、計画について議論する私たちの共通の課題となる。 ・コロナの影響もあると思うが、最新の合計特殊出生率は1.3に限りなく近づいている状況にある。若年層人口を近隣で取り合っても仕方がないので、例えばヨーロッパ等で実施されている国を挙げての取組みなどをしていかないと、合計特殊出生率を上昇させるということにはつながらないと思う。西宮市においては、自然減は進んでいるが、ここ数年間の15歳から29歳ぐらいの女性の転入は増加傾向にあり、今後の出生数が増えることで、ある程度相殺される結果となるかもしれない。しかしながら、これでは根本的な問題解決にはなっていないため、やはり少子化対策については、何らかの形で国県市が一体になり全体的に底上げを図るような手だてが必要だと感じている。
<p>座長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・未婚率がどんどん上昇している中で、若い女性が増えたからといって本当に既婚率が上がるのかということ、よく分からないところもあるが、いろいろな可能性を考えていければと思っている。少子高齢化や人口減少について、市としてできることは限られているが、その中でも何ができるのか、国、県とも連携しながら考えていかないといけない。異次元の少子化対策がうまくいくかどうかは分からないが、しっかり見据えながら何がどこまでできるのかということを考え、後期基本計画を作っていければと思っている。子供、子育て、教育の分野は大きな鍵になるように感じる。
<p>構成員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・15歳から29歳の女性が増えているのは、おそらく西宮北口周辺の商業施設によるイメージアップが非常に大きいと思う。転入入口は商業施設や民間の商業行為の中で引き付けてもらって、実際に住んだ後の継続性は、市政で十分バックアップしていけば、人口増につながっていくのではないかと思う。北部地域の塩瀬や山口においては、教育や医療に関する満足度が他の地域と比べて低い、これは特にコロナで顕在化した部分があるのではないか。電車もバスも乗り辛く、車を運転できない方たちは、コロナになった場合どこに行けばいいのか悩んだ方も多かったと思う。また、地域的に学校や保育所が少ないこともあり、一部地域では市民が手弁当で保育所を作られたことがあった。この先、人口減少が見込まれる中で施設を増やしていくのは難しいと思われるので、公共交通機関がもう少し整備されれば改善できるのではないかと感じる。
<p>座長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・西宮北口中心の地域でのにぎわいをどのように持続可能にしていけるか。ま

	<p>た一方では、塩瀬、山口地域の基盤をどう整えていくのか、大きな課題と考えている。</p>
	<p>1 財政収支見通しと事業計画</p> <p>(資料1について事務局より説明)</p>
座長	<ul style="list-style-type: none"> 4年間の実績、5年目の見通し、後期基本計画期間の財政見通しについてお示しいただいた。今後、この基本計画を議論していく上で、この財政フレーム、枠組みで議論をしていくことになる。すでに一定予定をされている、考えられている投資事業は大きな前提になり、場合によっては今後の優先順位の中で改めて議論しなければならないものもあると思われるが、まず、この大枠の見通しについて、御意見や御質問を頂きたい。
構成員	<ul style="list-style-type: none"> 昨今、建設の価格が高騰していることは、予算にある程度織り込んで考えられているのか。ある程度想定していたものがどんどん高騰して、実施できなくなるのではないのか心配になった。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> まずは、直近の単価で計算し、発注形態にもよるが、大型事業は現時点で先の事業費まである程度値上がりも加味して想定しており、特にごみ処理施設事業などはある程度反映されている。当然、収入の前提が崩れるとこのとおりには実施できないので、最終的には毎年の収支の状況を見ながら予算編成において調整する点は変わらないが、ある程度の単価の伸びは反映、調整もした上で、今の収支の状況の中である程度実施できることを確認するためにも、このような資料を作成している。
座長	<ul style="list-style-type: none"> 計算はしていても、なかなか計算どおりにいかないもので、入札不調のケースが全国で非常に多く発生している。事業費、積算も含めて、行政執行機関としても相当注意を払わないといけないところだと思う。以前は、東京オリンピックの影響が相当大きかったが、関西地域は2025年の大阪・関西万博の影響が大きいと言われており、資材費がどんどん上がる可能性がある。ウクライナの戦争事態で輸入原材料が軒並み上がっており、想定以上の負担をせざるを得ない場合も出てくる。こういうことも含めると、入ってくるお金は増えないので、出るお金のコントロールが大変かと思う。的確に優先順位を考え、一つひとつの事業の適正な執行管理をしていくことであろうと思われ、大きな枠組みとしての収支見通しを持っていることで、野放図な事業の執行にはつながらない、抑制も利くのではないかと思う。
構成員	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少の中、市内の県立高校の廃校の話が出ているが、公立の小学校・中学校に関して統廃合は考えていないのか。また、合理的配慮について、医療的ケア児や重度の心身障害、身体障害の子供などの公立一般小中学校への入学も門戸は広がりつつあるが、学校施設の改修におけるバリアフリー化に向けたエレベーターの設置などは全市的に進められているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 県立高校の統廃合は県の発表があり、本市も影響を危惧しているが、小中学校の統廃合の話は出ていない。幼稚園以下については、今後の検討を予定している。学校施設におけるバリアフリー化は重要と考えているが、進んでい

<p>構成員</p>	<p>ないところがある。医療的ケアは法改正もあり、現在、一定進めていくという前提で協議をしており、学校と保育所での対応を検討している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主な変更内容のところの新規となっており、医療的ケア児の受入れなどの経費は含まれていないと考えてよいか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療的ケア児の受入れは、人件費、看護師の費用などの投資ではない部分で掛かる費用と、それから一部、例えば障害児の受入れに対して改修をしていく費用がある。医療的ケア児にかかわらず小規模な改修はしており、通常の経費として収支に含んでいる。エレベーター設置については最低限実施しているものの、学校全体がきちんとバリアフリーになっている状況にはない。学校施設は、主に施設を持たすという長寿命化の考え方で改修を進めているが、改築、古い学校から建替えを進めていく事業費もある。バリアフリー化を考えると、抜本的な建替えも考えていかないといけないため、この点は費用の問題もあり、両方勘案して、どちらで進めていくべきかが今後の課題である。
<p>座長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校施設のバリアフリー化は、改築あるいは長寿命化、その中での施設整備の在り方など、今後の個別の後期基本計画の議論の中でも、改めて充実した内容になるように御議論いただければと思う。
<p>構成員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校等の建替え時の ZEB 化や、30by30 を目指した生物多様性に配慮した公園整備、サーキュラーエコノミー（循環経済）に向けたゴミ処理など、これらは予算が余分に掛かることになると思われるが、長期的に見ると合理的でプラスに働くようになる。財政的なことを見るときには数字が出てきてしまうが、このあたりはどのように考えているか。また、EWC エコカードなど、環境学習都市に関する予算はどこに計上されているのかお示しいただきたい。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ZEB 化の費用については、これまでの建て方に比べて 2 割から 3 割増えると聞いている。各施設の ZEB 化は今後進めていかなければならないテーマだと認識しており、後期基本計画に示していくことを検討している。ZEB 化での整備費を具体的に試算している事業もあるが、先の事業においてはその費用を計上できていないものもあり、どの程度 ZEB 化すべきかという観点も含めて、収支を見ながら整備のスピード等の調整も含めて検討していくことになると考えている。環境学習都市に関する経費については、個別に事業費として計上しているものではなく、全体の人件費や物件費、補助費などの項目に計上されている。環境啓発に関わる様々な物品や印刷費等は、ある程度の単価上昇を加味した固定費として確保されている。
<p>座長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共施設の建設については、ライフ・サイクル・コストを考えた場合、ZEB 化やより進んだ省エネ性能を採用することで、トータルでは大きな経費の節約につながるケースもあることが指摘されているが、実際本当にそうなるのかはまだ分からないところがあるため慎重に見極めていかないといけない。また、PFI など民間活力を活用したケースでのバリュー・フォー・マネーの違いも報告されている。より効果的で効率の良い事業の進め方ができるよう、後期基本計画策定の中でできる限り議論していければと考えている。

<p>構成員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、高齢化による担い手不足や女性の社会進出に伴って、住民自治基盤の再結成が大きな課題となってくる。住民の活動基盤となる地域コミュニティ施設の整備については、より身近な圏域で多機能化していくとか、高齢者も子供も子育て世代も使える共生型の拠点として整備していくなど、従来の拠点の考え方を考えていかないといけないと思われる。その辺りをどう推進していくのか、住民自治・地域行政に関する基本的な考え方についてお示しいただきたい。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティ施設については、新規整備もあるが、基本的には建替えという形で整備していく。建替えの際には、福祉機能と学校機能の複合化など、公共施設の在り方について考えていく必要がある。ただ、財源的には厳しい状況にあるため、民間の力も借りた活動拠点という考え方も必要になってくると考えている。後期基本計画の5年間よりももっと先を見据えた視点を持って、福祉部門や住民行政部門と調整、検討していきたい。
<p>座長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・そろそろ発想を変えて、従来の高齢者だけ、児童だけ、障害者だけというような議論ではなく、地域の居場所づくり的な観点が必要だと考える。従来の教育や生涯学習、福祉、保健といった枠を超えて、多機能、小規模な地域の施設を考えていく時代になってきている。この基盤づくりを後期基本計画の中で考えていなかるといけないかもしれない。今後の課題として議論が深められればと思う。
<p>構成員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・気候変動など災害リスクが高まる中で、インフラに対してより高い防災性を求められるようになってきている。想定されている災害リスクはどのように考えてどのような事業を計画しているのか。また、新たな施策に対する予算の柔軟性はあるのか。公共施設の整備など何かを考える際には、防災についても必ずセットで考えていただきたい。あとからわざわざ防災機能を足すのではなく、防災も、とい形で考慮しておくことで予算削減できるところがあると思う。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所として活用する施設について、予め最新の防災の観点を踏まえた整備をするということはもちろん考えていくべきだが、この10か年の計画では、施設整備などの具体事業は挙がっていない。今現在、災害リスクに対するものとして、既存施設の更新や防災スピーカーの更新事業が挙がっている。前期基本計画には入れていなかったが、学校の体育館に避難所を意識した空調整備を行う事業がある。このように社会情勢や事件、事故などを考慮して急遽着手する事業もあり、新たな需要や課題に即座に対応できる柔軟性を持った予算になっている。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設整備での公助については、コロナの影響で訓練ができなかった部分もあるが、完成した防災センターを有効に活用していきたいと考えている。これまで想定していた非常用物資だけではなく、コロナ感染症などの危機に備えた物資も確保しておく必要が出てきたため、それらを保管する場所が不足している状況にある。財政上の措置ということもあるが、民間の開発の中で倉庫や保管場所を提供してもらうことで確保するなど、この問題についてはし

座長	<p>っかり取り組んでいきたいと考えている。ようやくコロナが落ち着き始め、地域防災計画や個別避難計画などの取組みを再開できている状況にある。防災も公助でできることは限られているため、地域の力をいかに高められるかが重要であり、自助公助が両輪となって機能するような形を目指していきたい。もちろん予算上必要なものは計画に挙がっていなくても要求していく必要があるし、民間の協力なども含めて検討していきたいと考えている。</p>
構成員	<ul style="list-style-type: none"> ・本当に災害はいつ起こってもおかしくはない状況にある。災害時には、地域での自助、共助というのがいかにうまく働くか。もう一方では、その自助や共助が機能するように、それらを効果的に支えるような、公助という整備ができるか。特に施設整備という点では避難所だけではなくて、日常の防災の備えということも含めて、多機能的な機能の中に防災機能もしっかりと検討した整備というのがこれから必須かと考えている。事業計画の中でいろいろなものを盛り込めば、経費としてどんどんと膨らんでいくが、本当に必要なものの優先順位を決めて、市民の安心・安全、日常の暮らしの困り事をするだけ小さくしていくといったような観点での整備を考えていく、そういうところまではきているのかと思う。併せてそれを市役所だけでやるのは大変なので、民間の力、企業や事業者の方々の御協力もいただきながらというのが、これからの計画の大きな課題だと感じる。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・市がこれからどの分野に力を注いでいくのかがあまり見えていない。予算取りの中で、デザイン性を上げるなどをするには費用がかかってくるが、この5年間の建設や土木的整備で特に注力するものがあればお示しいただきたい。 ・高齢化が進むことを考え、交通手段や移動手段について、徒歩と公共交通を中心とした交通体系を構築していきたい。今後、庁舎周辺や阪神西宮駅の周辺においては、図書館等も含めた市民の利便性を確保するための施設整備を予定しており、それと同時に周辺の移動環境は、できるだけウォークブルとなる空間造りを検討している。 ・昨年11月に基本合意させていただいた武庫川新駅も予定しているが、大きなバス路線や鉄道駅までの移動も大変だという方が増えてきており、コミュニティ交通の導入をこれまで以上に強化していく必要があると考えている。現在、導入している生瀬地区に加え、名塩地区では2回目の社会実験に入っており、今後、甲陽園地区、苦楽園地区、山口地区などで積極的に試験運行、社会実験をして、導入に向けて検討していきたいと考えている。 ・南部地域では、通過交通を担う幹線道路や大きな鉄道路線となっている東西方向に比べ、市民の移動が多くバス路線等も走っている南北方向の道路が弱い。非常に細い道をバスが走っている状況にある。武庫川沿いの地域や上ヶ原地域では歩道付きの道路がほとんどない状況のため、今後、公共交通を中心としたまちづくりを進めていくためにも、最低限、歩道付きの道路、特に南北方向の道路を軸として整備していくことは、前々から掲げた目標としている。

<p>構成員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・北部地域については、常に学校、病院、交通、道路、この4つの課題が不十分だという指摘を受け続けている。学校や病院を誘致するのは難しいが、病院や買い物のために行く宝塚市や神戸市岡場への移動環境の改善、176号線の道路整備が不可欠となってくる。176号線の整備は、令和8年にはなんとか全線を開通させ、それに伴って公共交通も組み替えて、その近くの病院や学校を利用しやすい環境を造っていきたいと考えている。 ・ウォーカブルなまちづくりはいろいろな都市で進められているが、西宮の印象としては、どうも箱ものに頼りがちで、道の両側の街並や商店街などの楽しさが弱いように感じる。民間の協力がないとできないことだが、進めていただければと思う。
<p>構成員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・176号線については、以前はよく大雨で通行止めになったり、災害があった際に通れなくなったりすることがあったが、この数年はなくなった。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基準雨量に到達すると、生瀬と名塩の間で交通が分断されてしまい、孤立する形になってしまう。さらに、盤滝が通行止めになると完全に孤立して、神戸市や西谷から回り込まないと北部地域に行けなくなる。この課題も176号線の整備によって解消できる。阪神大震災時に孤立する形になった西宮浜を含め、孤立だけはなんとしてもしないようなまちづくりを早期に進めていきたいと考えている。
<p>構成員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基金は非常時など、いざという時に使えるものだと思うが、令和5年以降で都市計画事業の基金が0になって積み立てがなくなっている意図についてお示しいただきたい。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画の基金は都市計画税が原資で、基本的には当年度の事業費もしくは交際費、起債の償還に充てることを原則にしているが、震災以降、一気に事業を実施した反動があり、都市計画事業の対象経費が少ない状況にあることから、剰余となった都市計画分について基金に一旦、お金の色分けをするために寄せている状況。ただ、今後必要となってくる学校改築について、都市計画事業として進めていく予定もあり、今後の事業に伴い、基本的には使い切っていく経費である。都市計画事業を進めるに当たって貯めていくというよりは、その年度において使い切れなかった分が一旦ここに振り向けられ、現状ではそれが残高という形で残っているもの。年度によっては、逆に取り崩して充てていく年度も出てくる。
<p>座長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本来基金は、計画的にそれぞれの基金の性格に応じて目標額を定め、同時にその基金からの取崩しを計画的に進めていくということが大きな前提になるため、この辺りも事務局で少し注意して、整理をして進めていただければと思っている。
<p>座長</p>	<p>2 後期基本計画の策定に当たって (資料2について事務局より説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局では、後期基本計画の策定に当たり、従来の計画ではなかなか対応してこなかった、しきれなかった、不十分だったところを踏まえて、新たな課

	<p>題、重要な方向付けの論点、項目をいくつか挙げて具体的に反映させていくことを予定している。感染症の問題、DXの問題、カーボンニュートラル、そして地方創生総合戦略、この辺りが基本的な方向として大きいと考えているが、これらそれぞれの中身、内容について、またこれらに限らず、その範囲を超えるような、社会、経済の大きな変化も踏まえた、これからの後期基本計画を考えていく上での課題について、御意見をいろいろと頂いていただければと思う。</p>
構成員	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響は、「15 健康増進・公衆衛生」、「30 防災・減災」以外に、全ての分野に影響すると思うが、福祉の分野では特に生活困窮や外国籍住民の課題、ひとり親家庭で困窮した生活をされていた方の浮かび上がりなどがあり、今後この対策は非常に大きな課題だと思う。また、この2年間マスクで過ごしていた幼児や小学生は、コミュニケーションが不足して不発達の状態にあると言われている。福祉分野でも小さい時分に成長しなかったことが大人になって影響を与えるのではないかと懸念されている。教育における今後の子供たちへのフォローは、大きな問題と感じている。
座長	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の影響は単に健康問題だけに限らず、様々な行動制限や社会・経済の変化が及ぼす影響まで広げて考えていく必要があるのではないかと意見を頂いた。
構成員	<ul style="list-style-type: none"> ・小さい子供はふざけ合いながらコミュニケーションを取り、親密に友達を作っていくため、特に乳児期、2歳、3歳ぐらいの子供たちや中高生に、親密さに対する距離感が非常に出てきている。特に幼児期の後半から学童期辺りになると集団の中で埋没していく傾向があり、幼児期の発達の中で非常に大きな課題となってきた。コロナについては15番、30番だけではなく、幅を広げて考えたほうがよいと思う。「地方創生の推進」は、特に番号の付記がないが全般に渡るとの意味合いか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・地方創生は、平成26年に国が地方創生の推進の法律に基づいて進め、本市でも平成27年に一旦個別の計画として策定した。第5次西宮市総合計画でも、今後人口減少に向かう西宮市を意識して、施策をどう進めていくかというテーマがあり、結果、密接かつ似たような計画となるため、総合計画に統合したという経緯がある。国では、新たにデジタル田園都市の考え方も加えられており、個別にジャンル分けするのではなく、全施策を地方創生と位置付けるべきと考えている。
構成員	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉政策における前期と後期の違いについては、国で法律改正がされ、包括的な支援体制が努力義務化されたことが挙げられるが、これは簡単ではない。社会福祉の制度は、高齢、障害、児童、生活困窮と、超縦割りで充実してきた。地域包括ケアシステムのように制度内包括化はかなり行政も行ってきているが、問われているのは分野間包括化、つまり総合化であり、行政職員の意識から変えていかないと進まないため「第3期の福祉改革」とまで言われている。これは連携の包括化なので、実は見えない自治体間格差が異常なほど出てくることになる。福祉改革の重要性については、議論の際に問題意識

<p>構成員</p>	<p>を持っていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口を取り合うという話があったが、幾つかの市では、住んでいる人たちが自分を高められる、自分が楽しくなる、自分のほうからまちに働き掛けられる、地元に対する参加意識を持てる、やりたいことができる、起業も含めて若者や若い女性に起業するチャンスを与えるなど、そのまちに住んでいることの住みがいのようなものを自分から内発的に手に入れる環境づくりが非常に重要視されている。特にリタイア層の男性が生きがいを持ってまちに出てきてほしいなど、人にまつわる話が多くなっていると思う。与えるのではなく、自分で開拓も楽しんでもらうという言い方をしている自治体が多い。西宮市の場合、良い環境を作って、文教地区だから気持ち良く住んで欲しい、与えられた環境に収まっている感じがする。後期基本計画策定に当たってできること、西宮市が後期基本計画の売りにすること、市民の人たちに参加していただく機運を感じるものなど、その辺りをお示しいただきたい。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> 別会議で、西宮市民が西宮市に誇りを持っているとか、良いまちと思っている、西宮市は良いところだと周りにお勧めする気持ちを持っているという比率は高いが、一方で、参画については非常に弱いという、その差を埋めていくのが西宮市の課題だという話をしてきた。この先、地域という言葉が1つの大きなテーマになってきて、行政だけでできることはどんどん部分的になっていく。地域の参画がない中では、まちを作っていく、まちを維持していくことは難しいため、地域、事業者などにいかに積極的に参画してもらえ環境を、どう作っていくのかがテーマである。どこまで踏み込んで書けるか悩んでいるところであるが、研究させていただきたい。
<p>構成員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 予算も縦割りになっているが、地域は縦割りではなく、学校、公共施設、緑、公園も、全部が1つの地域の中で存在して、それをどうコーディネートするのかというのが本来一番大切なところで、それがなかなかできていない。以前、市内の公共施設の建替え工事があった際に、前面の歩道の街路樹を少し良くできないか聞いたところ、それは道路課だと言われたことがある。予算の融通性など、コーディネートできる人材をうまく配置できればと思う。予算というよりも組織の話であるが、そういうところから一体にしていかないと難しいように感じる。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市長も次に取り組むべきテーマのひとつとして「横串」を挙げており、必要性は認識している。社会福祉法も改正され、福祉分野別の取組から地域福祉を基盤とした取組になったというように、おそらく今後全てがそういう流れになってくると考えている。
<p>構成員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 同感である。人口減少や少子高齢化によって、行政も地域も事業者も人が少なくなり担い手が不足する。担い手は少なくなるが、家族の縮小化によりニーズは大きくなり、総合的に対応しないといけなくなる。「協働型ガバナンス」というこの時代の変革期だと思う。それをどこまで後期計画の中の考え方として、危機感も持って出すのかというのが今期の大きなテーマだと思う。
<p>構成員</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基本構想に「憩い、学び、つながりのある美しいまち」とあるが、ここで暮

構成員	<p>らす人たちのスタイル、生活があまり見えない気がしている。「地域」や「ウォーカブル」、「横串」、「つないでいく」など、1つでも2つでも打ち出せると、特徴的なところや取っ掛かりが見えてくるかもしれない。福祉でも、人と人が結ばれてつながって助け合うこともあり、ビジネス、コミュニティビジネスも、人と人が出会って新しいことが起こるなど、人が主役というところが少しでも見えてくると面白くなる気がする。</p>
座長	<ul style="list-style-type: none"> ・シビックプライドについて、何をもって市民が自分のまちにプライドを持ってくれるのかは難しい問題であるが、西宮は最近映画やテレビなどで舞台になることがあり、地域の方は盛り上がっている。フィルムコミッション活動をしていると思うが、西宮のポテンシャルは高いと思うので、更に高めるため、もう少し広報や市をプロモーションするものについて、書き込んでほしいと感じる。また、昨今の物価高に対する対策は、必要なのであれば書き込んでほしいと思う。
座長	<ul style="list-style-type: none"> ・物価高が市民生活を直撃しており、各種公共料金、特に貧困問題も含めて格差が懸念されている層に対する在り方など、向こう数年間、しばらくは影響が残ると思われるため、後期基本計画の中で取り上げないといけないかもしれない大きな課題かと思う。
構成員	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば、防災・減災では、それに対応することを考えるだけではなく、気候変動に対する適応策を考える必要がある。ごみの問題もこれに直結するし、生態系の保護もそうだと思う。つまり、SDGsのように、1つ1つのゴールが独立しているのではなくお互いに関係し合っていることが見える計画、1つのことをすると2つも3つもおいしい形を示していける計画になるといいと思う。一つの例で言えば、脱炭素社会の実現という項目があるが、そのゼロカーボンの実現によって、暮らしやすいまちや持続可能なまち、もっと幸せになるまちができる、つながっていくというように、見せ方を工夫していただけたらと思う。
座長	<ul style="list-style-type: none"> ・脱炭素も、ただ単に温暖化ガスの排出を減らすなどの話ではなく、むしろ市民生活全体がもっと豊かになる、一人ひとりがより健康に暮らせる、自然環境と共生できるような脱炭素でないといけない、ということだろうと思う。
構成員	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼロカーボンも、ウォーカブルとリンクしてくる。一つひとつというよりも、いろいろな市民生活と結び付けていくと地域の姿が少し見えてくると思う。
座長	<ul style="list-style-type: none"> ・そういう視点で、この社会の変化や新たな課題を捉え直していくというのが課題になるのだろうと思う。
構成員	<ul style="list-style-type: none"> ・北欧があんなにウォーカブルなまちにしているのは、このまちが好きな人に住んでほしいヨーロッパ中から来てほしい、という想いでまちづくりをしていて、そこにいる市民を幸せにするためにとは言っていない。道路上で皆でおいしい御飯を食べることを好む人たちは文化度が高いよね、という前提の下に、自分たちの国やまちに住んでほしい人物像を明確に持って、その人たちが楽しみそうな場を設定する、できる場をつくる、その考え方でお膳立てすることをしている。西宮市はとても良い環境だから誰でも来てくださいます

	<p>いう姿勢から、こんな人に住んでもらいたい、ということアピールできるように、ゼロカーボンも含め、環境のことを考える人、自分の生活を大事にする人など、こんな人に来てほしいと打ち出す、方向を変えるような考え方もあるのかと思う。</p>
<p>座長 構成員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・都市が人を選んでいくというのも、あってもいいかもしれない。 ・ペルソナという考え方は、人物像を設定して、マーケティングなどで使うが、ひょっとすると、まちづくりに応用してもよいのではないかと思う。
<p>座長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・後期基本計画策定に当たっての新たな課題等は、盛りだくさんにお話をいただいた。事務局からの提示項目全てがもっと市民生活や、市の施策全体に広がって、関わって、市民の暮らしを豊かにしていく、そしてより魅力的な都市にしていく、シティープライドを持ってもらう市民が増えていく。一方では、そのような都市にこそ住みたい、住んでほしい、そのような人たちが西宮を目指してくるまちにできると一番良いというところまで至った。 ・感染症問題は本当に幅広く、健康、保健衛生の問題だけではなく、福祉や教育、子育て、また経済問題にも深く関わって考えていかなければならない。 ・人口問題でいえば、地方創生で「まち・ひと・しごと」だけではなく、その中で発生している一つひとつの困り事を、むしろ「まち・ひと・しごと」全体を通じて支えていくような、福祉の分野でいえば従来の縦割りの包括支援から、どのくらい横割りの包括支援に変えられるかという大きな重い課題もいただいた。 ・カーボンニュートラルの点では、より豊かな社会や、経済や、子供たちの育ちや、自然生態系を実現する脱炭素でないという意味がないという意見もいただいた。 ・単に行政がDX化すればいい、あるいは企業がDX化すればいい、また、高齢者がスマホを使えるようになればいい、という話ではなく、このDXを通じて本当に西宮での暮らし方が快適で便利で、多くの人たちにとって豊かな暮らしを享受できる、資源を極力消費しないカーボンニュートラルに沿った暮らしができる、デジタル田園都市構想がそうであるが、それを実現できるものになっていかないといけないという課題もいただいたと思う。 ・市民参画や、あるいは地域自治、その中での地域参加、その中でどういう市民としての意識や積極的な参加意欲を持っていただくのか。また、もう一方では、そういう市民にぜひ西宮に来ていただきたい、そのような人をどのように探していくのか。この辺りは次の計画での隠れた大きなテーマかもしれないと思う。 ・それぞれの課題をもう一度事務局で踏まえていただき、後期計画に向けての主要課題、それを実際に基本計画のそれぞれの主要施策にどのように反映させていくのか、御検討いただければと思う。 ・以上のようなまとめで、これからの基本計画の後期計画の策定に入っていきたいと思う。

<p>事務局</p> <p>座長</p>	<p>3 その他</p> <p>今後の開催予定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい視点もいくつか御提示いただき、内部でも検討し、当初予定どおりの全体像で落とし込むのか、または各施策に落とし込むのかも含め議論させていただければと思う。次回からは各論の施策について御意見を頂きたいと思う。 ・当初は、全体が3から4回で、今年度2回、来年度2回というスケジュールを御提示していたが、日程調整の結果によっては、今年度中にあと1回ないしは2回というスケジュールを組む可能性もある。 ・今後の進め方は本日いただいた御意見を踏まえて、次回以降は具体的な後期基本計画の施策の御議論に入っていただくとのことでよいか。日程調整は後ほどということですのでよろしくお願いいたします。第2回の懇談会は以上にさせていただき、事務局のとりまとめに期待することでお任せをしたいと思う。次回はできれば先生方全員とこういう形でお会いして、しっかりと良い御議論ができればと思っているのでよろしくお願いいたします。 <p style="text-align: right;">以 上</p>
----------------------	--